

麻しん（はしか）の患者さんと接した方へ

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによって起こる病気です。感染力は非常に強く、空気感染するため、麻しんの患者さんと同じ空間にいただけでも感染することがあります。

肺炎などの重篤な合併症を引き起こすことがあり、患者 1,000 人に 1 人程度の割合で脳炎を発症します。死亡する割合も、先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われています。

麻しんと診断された患者さんとの接触があった方については、健康観察に御協力ください。

1 保健所からお願いしたいこと

(1) 自分自身の健康観察をしましょう

- ・麻しんと診断された患者さんと最後に接した日の翌日から 3 週間経過する
年 月 日 まで、毎日、健康観察を行ってください。

※ 患者さんと同居している場合は、患者さんの体調の経過によって健康観察の期間が変わるため、別途ご説明します。

- ・体温を測定し、カタル症状（咳、鼻水、目の充血）や発疹がないか確認し記録しましょう。
- ・体温が 37.5℃ 以上になった場合や、カタル症状や発疹がある場合は、外出を控え、電話で医療機関に相談してください。
- ・健康観察期間中は不要不急の外出を控え、外出の際はマスク着用についてご協力ください。
- ・麻しんの患者さんと最後に接した日の翌日から 3 週間経過後、京都市保健所から最終の体調確認のため連絡しますので、体調の経過を教えてください。

(2) 発熱やカタル症状、発疹が出現し、医療機関を受診する場合の注意点

- ・待合室等で他の人に感染させてしてしまうことがあります。

受診する際は、事前に電話で「麻しん患者と接したことがある」ことを伝え、受診方法（時間や入り口など）を確認してください。

- ・受診の際は可能な限り電車やバスなどの公共交通機関の利用を避けてください。



**特にMRワクチン接種前の0歳児、妊婦や免疫不全の方は
発症や重症化に注意が必要です！**

2 麻しんとはどのような病気か

- ・麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。
- ・感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染し、その感染力は非常に強いです。
- ・免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。
- ・感染後、10日～12日程度の潜伏期間の後、発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状（カタル症状）が現れます。
- ・2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱とともに発しんが出現します。発しんは耳の後ろ、首、顔、体、上肢、下肢の順に広がります。

※麻しんの感染～発症の経過（例）

〇月						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
発熱 15	16	17	発疹 18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

麻しんの患者さんと接触



※ 麻しん含有ワクチンの接種歴がある人は、潜伏期間が長くなる（感染から14日以上経過してから発症する）ことや、典型的な症状が出ないことがあります。

（例：高熱がみられない、発疹が少ししか現れずにすぐに消失する、など）

※ 発症の1日前から、解熱後3日経過するまでの間は、他の人に感染させる力があります。特に初期症状（カタル症状）の時期が、感染力が最も強いことがわかっています。

3 麻しん含有ワクチンの接種歴を確認しましょう

- ・母子健康手帳やワクチンの接種済証で、麻しん含有ワクチン接種を受けたことがあるか、確認してください。

麻しんワクチンは、以下のワクチンに含まれています。

麻しん・風しん・おたふく風邪ワクチン（MMR）
麻しん・風しんワクチン（MR）
麻しんワクチン



※ 麻しんワクチンの接種歴がある人も、免疫が十分獲得できていない場合や、免疫が弱まっていることがありますので、健康観察を行ってください。

（参考）予防接種法に基づく麻しんワクチン接種は、昭和53年10月から始まりました。

【1972（昭和47）年9月30日以前生まれ】

定期接種が行われていませんでしたが、自然に麻しんに感染していた可能性のある世代のため、免疫がある方とない方がいます。

【1972（昭和47）年10月1日～1990（平成2）年4月1日生まれ】

定期接種1回接種の世代です。麻しんに対する免疫が低い可能性があります。

【1990（平成2）年4月2日～2000（平成12）年4月1日生まれ】

定期接種1回接種に加えて、中学1年生、高校3年生相当の時期に2回目の追加接種を受ける機会がありました。

【2000（平成12）年4月2日以降生まれ】

定期接種2回接種の世代です。麻しんに対する十分な免疫を持っていると考えられますが、母子手帳等で接種の記録を確認してください。